



# 日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

## 特定非営利活動法人 日本防火技術者協会 平成17年度総会結果

NPO 法人日本防火技術者協会発足後、第3回となる平成17年度総会を下記のごとく開催いたしました。概要を報告いたします。同時に、日本建築学会防火委員会の主催、当会后援のシンポジウムが当総会后に、開催されました。

日時 平成18年1月23日(月)  
13時～13時15分

場所 東京理科大学森戸記念館  
議題内容

- 1) 平成17年度活動報告
- 2) 平成18年度活動計画報告
- 3) 会計報告
- 4) 監査報告
- 5) その他

### 【総会参加者】

会員数：90名(賛助会員を除く)  
総会成立条件 委任状を含めて会員の過半数の出席(定足数46名)  
出席者 出席29名、委任状32名  
合計61名

### 【平成17年度活動報告】

- 1) 調査研究事業(竣工建物見学会)  
7月23日日本橋三井タワー見学。
- 2) 調査研究事業(講演会等)  
2月12日：スクワール麹町にてブライラム・ミーチャム氏講演会  
2月24日：局所火災に対する耐火設計を考える  
9月30日：ジェフ・トーマス氏講演会  
6月17日：マドリッド・ウインザビル火災

### 3) 防火技術者の連携事業

### 【平成18年度活動計画】

- 1) 防火啓発事業  
消防機関などと連携し、防火まちづくりのあり方や技術の広範な普及のための活動を行う。
- 2) 調査研究事業(見学会)  
竣工建物の見学会などを企画する。建築学会や火災学会などとも連携する。年2

回程度の開催を目指す。

### 4) 調査研究事業(講習会)

火災安全性能や防火技術などの紹介のシンポジウムを建築学会や火災学会などと連携して年2回程度開催する。

### 5) 防火技術者の連携事業

インターネットを活用する。Email配信やホームページなどで防火技術者の技術向上のための情報を提供する。また倫理維持のための防火技術者の職能などについても、広く建築学会や火災学会、関係諸団体とも交流して意見交換を行う。研究会は定期的に開催する。

### 【会計報告】

会計報告および予算案が承認された。特に、平成18年度は、SFPEの主催の性能基準や性能設計に関するシンポジウムが早稲田大学国際会議場で開催予定であり、ホスト国として会場費の支出が必要になり、日本防火技術者協会の運営資金を約60万円の支出が提案され承認された。

なお、この結果、当会が会場費を負担することの見返りとして、当会会員は、外国からの参加費に比べて相当に割安な日本国内参加費の設定となり、より手頃に参加できる価格帯となりました。



## SFPE・Jニュース

(SFPE日本支部  
の活動 第13号)

## SFPE日本支部 2005年度総会開催結果

SFPE日本支部の2005年度総会を開催しました。概要を報告します。

日時 平成18年1月23日(月)  
13時15分～13時30分

場所 東京理科大学森戸記念館  
議題内容

- 1) 2005年度活動報告
- 2) 2006年度活動計画報告
- 3) その他

### 【2005年度活動報告】

### 【2006年度活動計画】

### 1) 防火技術職能WG

建築学会防火委員会防火技術職能検討WGとして活動、メンバーは富松(主査)仲谷、水野、海老原、佐藤、角谷、

中島、笠原、上原。2/20、3/31、5/31、7/29、9/22、11/12計6回会合。アンケートなども実施して「防火技術者の職能に関する報告書(案)」作成。職能アンケート結果などをパワーポイントで説明。

次回総会(2006年)には倫理規定、行動規範をまとめる予定。教育についても研究。

### 2) 防火教育WG

防火技術者の教育を目的に研究会を実施。メンバーは原田(主査)大宮、栗岡、黒田、佐藤(博)、佐藤(淳)、志田、関沢、杜、富松、仲谷、名取、野竹、長谷見、堀田、松山、万本、矢代、山田の19名、5/20、9/27、11/29の3回開催した。防火関係出版物リストの作成と分類、本部の性能設計デザインガイドの輪読を行う。また、ルクセンブルグ会議報告会の企画をおこなった。当該WG後半は、東京理科大学21世紀COEプログラムの教育フォーラムとして開催することが合意された。第一回COE教育フォーラムは9/27に行き、原田がある建築学科での講義概要を説明した。

### 3) SFPE ケーススタディWG

2004年10月6～8日のルクセンブルグでの第5回性能設計シンポジウムに建築学会防火委員会火災安全設計小委員会(萩原主査)と共同で参加。WG(大宮主査)にメンバー参加。純粋SFPE日本支部からは、水野、海老原、佐藤、角谷、竹市、中村(NTT)が参加。他のメンバーも主要メンバーはSFPEメンバー。

次回シンポジウム(2006年)は日本での開催が決定的である。

### 4) 見学会・講習会(事業WG)

1/28 ユン・ミョンオ教授(ソウル市立大学・都市防災安全研究所長)講演会参加

2/23 清水建設技術研究所見学

9/15 室崎益輝先生(消防研究所理事)講演会参加

11/30 地下鉄探検隊 20名参加

2005年も積極的に行う。まずは東京理科大学COEプログラムに合わせ3/8にシンポジウム開催予定。場所は東京理科大学森戸記念館を予定。SFPEメンバー(米・アジア)参加予定。



# 日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

## 5) 広報活動

SFPE - J ニュース(仮題)はそのまま「NPO 法人日本防火技術者協会」の広報ともなり日本防火技術者協会ニュース(JAFPE ニュース)の一部に掲載。ホームページも日本防火技術者協会の中に SFPE-J ニュースを掲載。関連リンク、関連ニュース(ハワイ支部)を紹介。

## 6) 対外活動

10月にルクセンブルグで米国外支部代表者会議に原田が参加し情報収集を行った。欧州では、スペインで支部が設立された。スイス、ポーランド、イタリア、ポーランドなどは設立可能性を探っている段階である。

11月からの本部の新体制下で、関沢理事が Board of Directors に就任した。

## 3) その他

行動規範(ガイドライン)の制定(案)が提示された。継続審議となった。

この行動規範(ガイドライン)は倫理綱領に示された内容をより具体的にしめすものである。「防火技術者」をとりまく社会的環境と、広く都市・建築に期待される「防火技術者」の役割を鑑み、日常の業務等の遂行の上で自らを律するものとして定めるものである。倫理・規範を求めることは専門家としての不可欠な要件であり、社会からの要請と考える。またこれに反する行為に対する懲戒の判断材料ともなるものである。さらにこの内容は「防火技術者」の声や社会状況などの変化などを反映しながら、定期的に見直され継続的な改善を行うものである。

### シンポジウム 開催結果概要 「防火技術者」は 日本ではどうあるべきか?

年次総会に引き続き、シンポジウムが開催された。シンポジウムの概要を報告する。

建築基準法の性能規定化に伴い、日本においても防火関係の性能設計が進んでいる。その際に防火技術者が関与しながら計画を練ったり、実施設計を進めたり、性能評価などの申請用資料が作成されている。このように重要な業務を担っているが、そ

の職能が確立しているとは言いがたい。防火委員会防火技術職能検討WGはその職能・倫理などについて検討を進めてきたが、広く識者の意見を聞く場を設けて、海外の例や行政関係者などの意見も求め、これからの「日本の防火技術者」のあり方を探るためのシンポジウムが開催された。概要を報告する。当日は、定員40人の1.5倍を超える参加者が参集し活発な議論が行われた。

主催：日本建築学会 防火委員会  
後援：東京理科大学 COE  
NPO 法人日本防火技術者協会  
SFPE 日本支部

日時：2006年1月23日(月)  
13:30~17:30

会場：東京理科大学・森戸記念館

内容：  
司会・主旨説明：富松太基(防火技術職能検討WG 主査・日本設計)



#### 1. 日本の現状 佐藤博臣(日本防火技術者協会理事長・ERS)

日本の防火技術者協会の現状、火災安全に関する資格の現状を踏まえ、防火技術者の役割と課題について述べた。

#### 2. 海外では 関沢 愛(東京大学)



主として米国の、建築規制および基準作成の制度環境と防火対策技術の現状、防火対策技術の現状、性能設計をめぐる動向などを述べ、韓国の状況についても触れた。

#### 3. 日本での地位は 中島秀男(明野設備研究所)

防火技術の存在感が大きくなっていることを、6つのキーワード「防火技術の一般化」「防火技術の必然」「防火技術のラ

イフサイクル化」「防火技術の説明」「防火技術者の責任」「防火技術の信頼性と技術者の連携」にまとめて述べた。

## 4. 防火技術者に期待すること

川崎和夫(東京消防庁)



近現代の火災事例を振り返るとともに、消防が行っている建物の防火安全対策、火災災害予防行政の概要を述べた。

## 5. 東京理科大学 COE と教育について 水野雅之(東京理科大学総合研究所)

東京理科大学が火災安全に特化した COE 拠点として採択され、活動している状況を報告した。防火技術者の職能を「能力」と「役割」と捉え、その面でもより問題が大きいと認識され、そのためにも COE 拠点としての教育活動を展開していく必要と計画について述べた。



## 6. 討論

・防火技術者の定義・役割について  
・防火技術者の能力について  
活発な議論がなされた。

まとめ 室崎益輝(防火委員長・独立行政法人消防研究所)  
防火技術者の地位の確立、活躍の場の確保、保険と性能、経済、教育の問題など今後もしっかり議論していく必要があることなどが述べられた。

(パネラーの河崎和夫氏にはシンポジウムの3日後に自宅で倒れられ、救急車で病院に搬送されましたが、そこで急逝されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。)



# 日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

## S F P E 主催 シンポジウム開催 のお知らせ(再掲載)

### 第6回性能基準と 火災安全設計国際シンポジウム

6th International Conference on  
Performance-Based Codes and Fire  
Safety Design Methods

この度、米国に本部を置く S F P E (防火技術者協会)主催の性能基準と性能設計シンポジウムが日本で開催されます。日時と開催場所は以下の通りです。今回は、ルクセンブルクで開催されました。

日時: 2006年6月

14日(水)~16日(金)

場所: 早稲田大学国際会議場、及び  
リーガロイヤルホテル東京

性能基準と火災安全性能設計方法に関する第1回の会議が1996年に持たれてから、多くの国において性能基準や性能設計法が発展してきています。しかしながら、これらのアプローチを使えるのは一般に高度なプロジェクトに限られていました。そして、性能に基づく設計が使われるプロジェクトの割合は各国間で異なります。

本シンポジウムでは、性能に基づく基準のアプローチと工学的設計方法で最新技術のものが紹介されます。新技術(よく働いたアプローチ)についての見通しと同様に働かなかったアプローチに関して発表されます。本シンポジウムは、日本で開催されます。日本では、多くの他の国よりかなり高度な基礎によって設計されるプロジェクト割合を持ちます(と思われる)。

この10年にわたり性能基準における先端技術・工学手法での設計に関する情報の場となるイベントとして、このシンポジウムは S F P E ミュニティできわめて高い評価を得ています。

シンポジウム開催案内及び参加登録方法が決まり次第、お知らせします。日本開催のチャンスを活かす上でも、多くの方の参加を期待しています。

正式な開催案内書と参加申込書は、日本防火技術者協会(JASPE)のホームページからダウンロードできます。

### Journal of Fire Protection Engineering Vol.16 No.1 2006

Behavior of Structures in Fire and  
Real Design - A Case Study (構造の  
火災時の挙動と実設計 ケーススタ

ディ), S. Lamont, B. Lane, G. Flint  
and A. Usmani.

Representing the Influence of  
Signage on Evacuation Behavior  
within an Evacuation Model(避難モ  
デル内の避難行動における誘導標識  
の影響について), L. Filippidis, E. R.  
Galea, S. Qwynne, and P. J.  
Lawrence.

### Fire Protection Engineering WINTER 2006 No.29

Warehouse Sprinkler Design  
Configurations Not Covered by  
NFPA 13(NFPA13に含まれていない  
倉庫のスプリンクラー配置設計)

An examination of computer models  
and analytical tools, storage  
variables, and numerous storage  
arrangements (コンピュータモデル  
と解析ツール、各種倉庫、多数の倉庫  
配置の調査) Thomas Allen, P.E.,  
and Renato Molina, P.E.

Lessons Learned from Warehouse  
Fires. (倉庫火災から学ぶレッスン)  
Seven key principles for incorporat-  
ing appropriate defense strategies  
(適切な防衛戦略を取り入れるため  
の7つの重要な原則), Jeff L.  
Harrington, P.E.

Meeting the Challenges of an  
Ever-Changing Storage Industry.  
(常に変わり続ける倉庫産業の挑戦  
との出会い) How to select the right  
sprinklers for storage/distribution  
and retail "big box" facilities(物流倉  
庫と小売りのビックボックス施設へ  
如何に適切なスプリンクラーを選択  
する方法), James Golinveaux and  
Joe Hankins.

Big Box Retail: A Building and Fire  
Code Perspective.(ビックボックス小  
売り: 建築物と消防法規の展望)  
Design considerations for  
challenging retail spaces. (挑戦的な  
小売り空間を考慮した設計), Ed  
Schultz.

The Efficacy of Duct Smoke  
Detection, Part 1 (ダクト煙感知の有  
効性 パート1) An Exploration of

smoke-driving forces, smoke  
dilution in ductwork, and the effects  
of smoke aging on detection in  
ductwork. (ダクト内の煙の推進力と  
希釈、ダクト内の感知における煙の老  
化の研究), NEMA.

### SFPE TODAY

### NOVEMBER-DECEMBER 2005

SFPE TODAY・SFPEにNew Website  
が開始された。日本で開催予定のシン  
ポジウムの開催記事が掲載された。

・ E&SF Helps to Fund Smoke  
Detector Study,  
New Magazine Website が開始され  
た。 [www.fpemag.com](http://www.fpemag.com)

### 理事会等の開催結果

理事会を以下の日に開催。

3月2日(木)

4月7日(火)

S F P E 本部理事会が、ハワイで開  
催され、関沢本部理事が出席された。

### 新入会員

新たに入会された個人会員 6 名  
の方々を記載しました。(敬称略)

[会員]

小林将之〔東京大学〕

峰岸良和〔竹中工務店〕

林 広明〔大成建設〕

西野加奈子〔建築・住宅国際機構〕

棚池 裕〔建築・住宅国際機構〕

八木 充〔能美防災〕

[合計 93 名]

[学生会員]

[1 名]

[賛助会員]

[合計 4 社]

### 訃 報

当会会員 河崎和夫氏は、1月26日  
急逝されました。慎んでご冥福をお祈  
り申し上げます。

### ホームページ開設中

NPO 法人日本防火技術者協会のホーム  
ページを開設中。

URL は、 <http://www.jafpe.or.jp>

です。

SFPE 本部のホームページもご利用下さい。

URL は、 <http://www.sfpe.org/>

です。